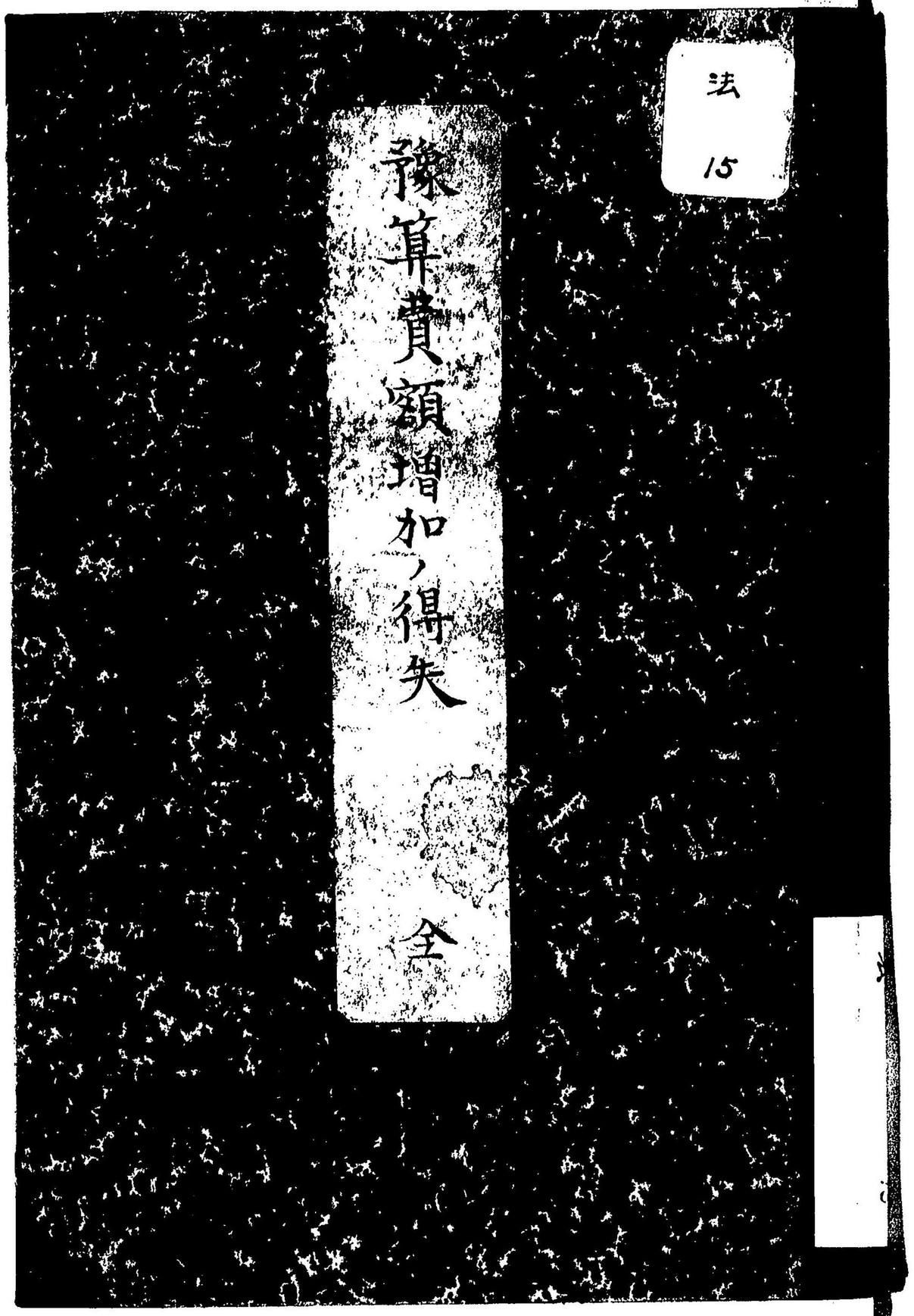


301036-000-0

法-15

豫算費額增加ノ得失

金子 堅太郎／著

M25. 6

BDE-0007

豫算費額增加ノ得失

米國「ハーバード」大學パチェラー、オブ、ロース　金子堅太郎

豫算協贊ノ區域ニ關シ歐米各國ノ議院制度ニ於テ二種ノ主義併存セリ、一ハ歐洲大陸諸邦及米國ニ行ハル、モノニシテ今假ニ之ヲ稱シテ積極的ノ主義ト云ヒ一ハ英國ニ行ハル、モノニシテ之ヲ呼テ消極的ノ主義ト稱シ以テ左ニ其ノ異同得失ヲ論セントス、

歐洲大陸諸邦及米國ニ行ハル、積極的ノ主義ニ據レハ議會ハ獨リ政府ヨリ提出シタル豫算案ニ於テ定メタル歲出費額ノ範圍內ニ於テ可否ヲ表スルノミナラス更ニ國庫ノ負擔トナルベキ費額ヲ增加シ又ハ新費目ヲ設クルコトヲ得ルモノトス、豫算案ニ記載シタル費額ヲ減却シ又ハ增加シ若ハ新ニ費目ヲ設クルハ均シク議會自由ノ意志ニ在リトス、蓋歐洲大陸諸邦ノ憲法ハ歐洲二回ノ大革命ヲ經テ制定改正セラレタルモノニシテ議院ノ權力ヲ擴張スルノ餘財政監督ニ要スル

適當ノ範圍ヲ逸出シテ此ノ極端主義ヲ執ルニ至レリ、又米國ノ憲法ハ佛國ノ民主々義ヲ崇拜シタル政治家カ起草シタルモノニシテ其ノ法文ノ解釋及施行モ亦總ヘテ此ノ主義ニ據レリ、

英國ニ行ハル、消極的ノ論旨ニ依レハ歳出協贊ノ區域ハ政府ヨリ提出シタル豫算案ニ掲載シタル費額ノ範圍內ニ於テ之ヲ可否スルニ止マリ其ノ範圍ヲ超逸シテ費額ヲ增加シ又ハ新ニ費目ヲ設クルコトヲ得サルモノトス、議會ハ財政ノ當局者タル行政官ヨリ提出スル豫算ノ費額ハ果シテ人民ノ負擔ニ堪ユルヤ否ヤヲ審査シ其ノ金額ノ範圍內ニ於テ協贊ヲ行フニ止リ決シテ費額ヲ增加シ又ハ新費目ヲ設置シテ國民ノ負擔ヲ增加スルコトアタハス、今其ノ理由ヲ尋ヌルニ抑財務ニ關スル議會ノ本分ハ國家ノ財政ヲ監督スルニ在リ、自ラ財務ノ局ニ當リテ豫算ヲ調製シ費額ノ支出ヲ指揮スルニ在ラサルナリ、蓋執行ト監督トハ自カラ其ノ職ヲ異ニスルモノニシテ均シク行政部內ニ在リテモ財務ノ執行ト監督トハ初ヨリ其ノ官ヲ同フセス、議會既ニ監督ノ權ヲ把リテ執行ノ良否ヲ政府ニ責ム、猶安シソ執行ノ權ヲ併セテ自カラ有スルコトヲ得シヤ、若シ一朝之ヲ併有セン乎是レ既ニ監督者タルニアラサルナリ、誠ニ二人ニシテ兩種異樣ノ職權ヲ併有スヘカラサルヲ悟ラハ則英國議院カ執ル所ノ主義ノ理ニ合スルヲ知ラン、

以上ハ積極消極二主義ノ論旨ノ概略ナリ、然レトモ審ニ其ノ實際ニ行ハル、所以ヲ察スレハ彼ノ積極主義ヲ執ル所ノ歐洲大陸諸邦ノ議院ニ於テモ亦必シモ其ノ主義ニ依ラサルコトヲ發見スヘシ、今左ニ其ノ事實ヲ列記シテ讀者ノ參考ニ供セントス、

第一　獨逸帝國議會及獨逸諸邦ノ議會ニ於テハ政府ヨリ請求スル豫算費額ヲ變更スルコトアリト雖其ノ變更スル金額ノ巨額ニ上ルコトハ甚稀ニシテ其ノ之ヲ增加スルコトハ絶無ト稱

スヘシ、

第二　和蘭瑞馬ノ二國ニ於テハ豫算費額ヲ增加スルノ發議權ハ議會ノ保有スル所ナレトモ實際之ヲ施行シタルコト稀ナリ、

第三　米國ニ於テハ豫算費額增減ノ權ノ如キハ當然議會ノ占有スルモノナリト主唱スルニ係ラス其ノ實際ニ於テハ政府提出ノ豫算費額ヲ削減スルノ外之ヲ增加シタルコト稀ナリ、

然ルニ獨リ佛國ノ議會ニ於テハ古來豫算費額增加ノ權ヲ實施シテ其ノ弊害往々救フヘカラサルニ至リ學者政治家ノ憂慮スル所トナリ屢〻政治上ノ問題トナレリ、今左ニ其ノ重要ナルモノヲ記シテ以テ佛國ノ學士政治家ノ意見ヲ示サントス、

第一　千八百六十二年第二帝國ノ時代ニ於テ豫算委員ノ報告者タルアルフレット、レル―氏ハ代議院ニ於テ議院自カラ豫算ノ增額ヲ爲スヘカラス若シ議院ニ於テ增加ヲ要ストナストキハ之ヲ政府ニ建議スルノ規則ヲ設クヘキコトヲ演說シタリ、

第二　千八百七十三四年ノ頃前大藏大臣「レオン、セ―」氏ハ豫算費額增加ノ議權ニ關シ講究センカ爲ニ自ラ英國ニ渡航シ英國前下院書記官長「メイ」氏及現任書記官長「パルグレ―ブ」氏ニ就キ深ク之ニ關スル英國ノ慣例及論理ヲ研究シ其ノ善美ニシテ安全ナルコトヲ賞贊シ歸國ノ後英國主義ヲ採用スヘキコトヲ切論シタレトモ其ノ說竟ニ未タ行ハレス、

第三　千八百七十六年「ガンベッタ」氏ハ憲法改正案ニ於テ代議院ノ財政權ヲ制限シ費額增加ノ發議權ヲ奪ハントスルシタリシカ當時ノ內閣ハ之ヲ以テ代議院ノ承諾ヲ得ルコト能ハストナシ其ノ議竟ニ寢メリ、

消極主義ヲ執レル英國ニ於テハ殆百八十年以前ヨリ議事規則ニ於テ

此ノ主義ヲ定メ議院ハ政府ノ同意ヲ得ルコトナクシテ國庫ノ負擔トナルヘキ議案ヲ發議議決スルコトヲ得サルナリ、

此ノ規定ノ旨趣ハ「トッド」氏英國議院政治論「メイ」氏英國議院典例等ニ詳論セルカ如ク豫算ハ獨リ政府ニ於テ調製スヘキモノニシテ費額ヲ增加シ又ハ新費目ヲ設置スルハ政府ノ職分ニシテ議會本然ノ職ニアラストセリ、是レ其ノ意議院ト政府トノ職務ヲ區別シ財政ノ施行ト監督トヲ混同セシメサルニ在リ、故ニ豫算費額請求ノ權ハ政府ニ於テ之ヲ有シ議院ハ其ノ請求ニ對シ審査承認ノ權ヲ有スルナリ、豫算ニ關スル英國ノ諺ニ曰ク君主ハ政費ヲ請求シ議院ハ之ヲ供獻スト、

上來述フルカ如ク豫算協贊ノ區域ニ關シ積極消極二樣ノ主義併存セリ、而我帝國議會ニ於テ豫算協贊權ヲ行フニ方リテハ果シテ何レノ主義ヲ執ルヘキ乎、我帝國憲法及附屬ノ法令ハ之ニ關シ別ニ規定スル所アラス、積極主義ヲ執ランカ固ヨリ議院ノ自由ナリ、消極主義ヲ執ランカ亦固ヨリ議院ノ自由ナリ、深ク立憲制度ヲ踐行シタル海外諸國ノ實歷ニ徵シ又汎ク學者政治家ノ意見ヲ尋ネ其ノ宜シキヲ裁シテ以テ百年ノ禍源ヲ未然ニ杜絕スルハ其ノ責一ニ帝國議會ニ在リ、

以上ハ學說ノ點ヨリ論スルモノニシテ異樣二主義ノ執レノ說ニ決スルヤ否ヤハ議會當時ノ傾向ト國民一般ノ性情トニ在リテ存セリ、若シ夫レ豫算費額增加ノ權ヲ議會ニ與ヘタルカ爲ニ種々ノ弊害ヲ惹起シタルコトハ各國ノ政黨歷史ニ於テ歷々之ヲ徵スヘシ、今其ノ弊害ノ重モナルモノヲ左ニ列記スヘシ、

第一　豫算費額ヲ增加シテ黨派ノ私利ヲ圖ル事、例ヘハ軍艦製造、鐵道布設、道路開鑿、砲臺建築、官衙建築、若ハ築港、堀割、工業等ノ事業ヲ興シ又ハ政府ヨリ諸會社ニ下附スル保護金額ヲ增加シテ以テ其ノ起業者若ハ會社員ト密約シ利益ヲ分配シ

テ自黨ノ運動資本ニ供ヘ又ハ議員選擧ノ費用ニ充ツルコト往々是レアリ、

第二　各政黨互ニ比周連合シテ私利ヲ謀リ以テ經費ノ增加ヲ招ク事、例ヘハ甲黨ニ於テ鐵道布設ノ爲ニ豫算費額ヲ增加センコトヲ企ツルニ當リ先ツ乙黨ニ說キテ其ノ應援ヲ求メ之ニ酬ユルニ乙黨ノ提出スル製造所建築ノ事業ヲ贊成センコトヲ密約スルカ如キコトアリ、此ノ如キ贊成交換ノ結果ハ政黨ノ私利ヲ營ムカ爲ニ年々國家ノ經費ヲ增加スルニ至ル、

第三　各地方ノ議員互ニ結托シテ地方ノ利益ヲ圖リ國庫ノ負擔ヲ增加スル事、例ヘハ甲地方ノ議員堤防修築費ノ支出ヲ發議セント欲シ豫メ乙地方ノ議員ト謀リ其ノ港灣浚渫費ノ發議ヲ援ケンコトヲ約スルノ類是レナリ、

第四　總選擧ノ迫ルニ際シ地方的ノ精神ヲ以テ事業ヲ起シ選擧區民ノ歡心ヲ求ムル事、例ヘハ總選擧ノ前年ニ及ヒテハ代議士ハ百方選擧區民ノ歡心ヲ買フコトヲ務メ國費ヲ以テ地方ノ利益トナルヘキ事業ヲ起サシメ若ハ國費ノ支出ヲ增加シテ在來ノ事業ヲ盛ナラシメ以テ當選ノ志ヲ遂ケントス、此ノ如ク自他援引彼此比周シテ國民遂ニ其ノ負擔ニ堪ヘサラントス、

第五　政府ト議院ト相依リテ國費ヲ濫用シ人民ノ負擔ヲ重カラシムル事、例ヘハ政府若シ議院ノ怒ニ觸ルヽトキハ其ノ提出シタル豫算ノ通過ニ便ナラサルヲ虞リ議院ノ發議ニ係ル所ノ費額增加ノ件ヲ忍容シ議院ハ政府提出ノ豫算ヲ可決スルヲ德トナサシメ依テ以テ自己提出ノ增額ヲ行ハシムルコトアラハ是レ政府ト議院ト相依リテ國帑ヲ糜爛シ國民ヲシテ其ノ弊ニ堪ヘサラシムルナリ、且政府ハ租稅ヲ徵收シ國資

ヲ費消スル地位ニ立ツモノナレハ自カラ人民ノ怨府トナルヲ免カレス、是ヲ以テ國民怨嗟ノ責ヲ分チテ議院ニ附センカ爲ニ議院ヲシテ增額ヲ議決セシメ政府ハ議院ノ決議ヲ遵守スルノ裝ヲナシテ之ヲ許容シ依テ以テ自己ノ不人望ヲ減殺セント欲スルノ弊ナキニアラス、夫レ此ノ如クニシテ財用ヲ糜シ國民ノ負擔ヲ重カラシム、國民政府ニ向テ之ヲ責メント欲スレハ政府ハ傲然其ノ過失ヲ議院ニ歸シテ自ラ知ラサルヲナスヘシ、國民議院ニ向テ其ノ非ヲ鳴サント欲スレハ議院ハ漫然責ヲ政府ニ歸シテ自ラ護ラントス、國民日ニ苛稅ニ苦ミテ而愁訴スルニ所ナカラントス、是レ豈立憲制度ノ本旨ナランヤ、議會ヲシテ費額增加ノ權利ヲ有セシムルノ弊遂ニ爰ニ至ラントス、

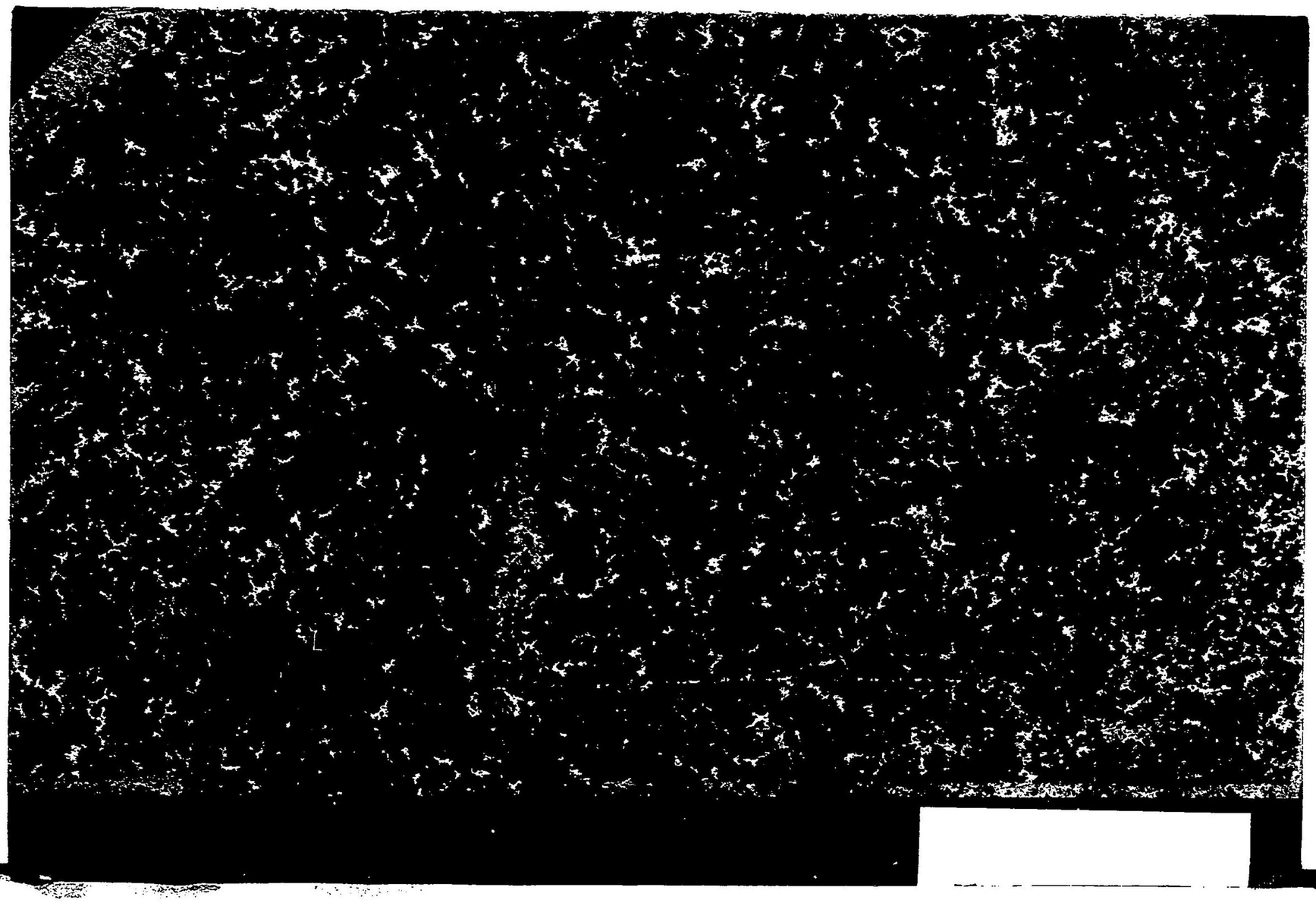
此ノ故ニ議會ノ體面及地位ヲ保タント欲セハ財政監督タル本分ヲ守リ政府ノ要求スル所ノ豫算費額ヲ審案シ豫算費額ノ增加及新費目ノ設置ニ至リテハ擧ケテ政府ニ一任スルヲ要ス、余カ歐洲巡回中佛國巴里大學ノ憲法學士「ルボン」、英國下院書記官長「バルグレーブ」、英國「オクスフオード」大學ノ憲法學士「ダイセー」及「アンソン」ノ諸氏ヲ見テ豫算協贊ノ區域ヲ論シタル時皆豫算費額增加ノ件ニ關シテハ歐洲大陸諸邦ニ行ハル、弊害ヲ避ケ英國ノ美風ヲ採用スヘキコトヲ切論セリ、

此ノ事タル英國ノ例ニ倣ヒ議事規則ニ於テ之ヲ規定スルカ又ハ獨逸、和蘭、墨馬、米國ノ例ニ則トリ之ヲ議院ノ慣例トスルカ或ハ法律案ヲ提出シテ之ヲ議定スルカ何レノ方法ニ依ルヲ問ハス我帝國議會ニ於テハ須ラク今日ニ於テ英國主義ヲ採用シ國家百年ノ禍源ヲ未然ニ杜絶スルコトヲ圖ルヘキナリ、

10/34

明治二十五年六月四日出版

東京麹町區內幸町貴族院官舍
著作者兼發行人　金子堅太郎

東京府士族
明治二十五年六月四日印刷　印刷局

法
15